『コーパスに基づく言語学教育研究報告』No.7（2011）

スペイン語の動詞 DECIR を含む文の語順に関する一考察—yo digo と digo yo について*

結城　健太郎
（東京外国語大学大学院博士後期課程）
高垣　敏博
（東京外国語大学大学院総合国際学研究院）

要　旨

スペイン語の動詞 DECIR の直接法現在一人称単数形 digo と主格人称代名詞一人称単数形 yo の組み合わせ，yo digo/digo yo は，単に話者が誰かを示す用法(話者伝達用法)と，談話的に意味付けを行う用法(談話処理用法)がある。後者は「内容部は自分の述べることである」という意味を付け加える機能であるが，これには「強い意見」・「弱い意見」・「言い直し」という意味付けを行う下位機能がある。本稿ではまずオンラインコーパスにおける用例を調べ，出現位置と用法，語順に関する傾向を調べた。話者伝達用法で使用される場合は前位で用いられる傾向がある。談話処理用法については，「強い意見」は前位，「弱い意見」は中位・後位，「言い直し」は中位・後位で現れる傾向がある。yo と digo の順序については，話者伝達用法の場合は，yo は話題として使われるために yo digo の語順が用いられる傾向がある。一方，談話処理用法の場合については，「言い直し」と「弱い意見」の場合は yo を焦点として示すために digo yo の語順が用いられるが，「強い意見」の場合は digo を焦点として示すために yo digo の語順で用いられる。

1. はじめに

本稿ではスペイン語の動詞 DECIR(基本的意味は「言う，述べる」)の直接法現在一人称単数形 digo と主格人称代名詞一人称単数形 yo の位置関係について考察する。yo digo/digo yo はある言説の前後や内部に挿入的に現れるほか，その意味についても単に「私は言う」に加えて，前言の訂正をしたり，ある言説が自分の意見であることを示したりする談話的な役割を担う場合がある。例文 1 はスペイン語の話し言葉コーパスからとられたもので，digo yo は直前に述べたことが自分の意見であることを示す用法で使われている。闘牛に関する

* 本研究は科研費(基盤研究（A）課題番号 19202015)「多言語話しことばコーパスと学習者言語コーパスに基づく言語運用の研究と教育への応用」(研究代表者川口裕司，平成 19 年～平成 22 年）の補助を受けて実現したものである。

文脈のなかで, 話者 A は自分の考えに疑問を挟んだ話者 B に対し, 推量表現 habrá cambiado を用いて自分の考えを述べ，最後に digo yo と付け加えて自分の考えであると述べている。

例文 1

A: El toro, los toros y el cristianismo, lo único que venía directo, o sea que no, directo hacia nosotros, o sea no ha cambiado casi nada. Y sin embargo no sé…

B: <¿casi nada?>

A: …bueno menos habrá cambiado el toreo que el cristianismo *digo yo*[1].

A: 闘牛は，闘牛とキリスト教は，これだけがそのままやって来て，つまり，僕たちのところへやって来て，つまり，ほとんど何も変わっていない。でも僕はよくわからないのだけど…

B: ほとんど何も？

A: いや，闘牛はキリスト教ほど変わってはいないだろうと僕は思うよ。

最初に digo の用法について概観し, yo の役割, 話法における yo digo/digo yo の位置づけ, また談話標識としての digo に関する先行研究について述べる。次にコーパス中の用例を調べ，yo digo/digo yo の発話内での位置とその用法の関係，yo と digo の順序と情報構造の関係について考察する。なお，yo と digo の組み合わせの部分を導入部，それが伴う引用部分を内容部と呼ぶこととする。また導入部の位置について，内容部よりも前である場合は前位，内容部に挿入的に現れている場合は中位，内容部よりも後である場合は後位と呼ぶ。

2. 先行研究

2.1. decir と digo の辞書的な説明

スペイン王立アカデミアによる DRAE(Diccionario de Real Academia Española)では, DECIR の代表的な語義として，1．言葉で思考を表明すること，2．保証する，支持する，意見を述べる，3．名付ける，4．意味する，5．(書物について)ある考えを含む，をあげている。また，成句として digo をあげ，1．驚きを意味する間投詞，2.「明らかである・疑いなく」を示す間投詞として説明している。María Moliner による DUE(Diccionario de uso del español)では，1．(話して)述べる，2．(書いて)述べる，3．(書物が)あることを含む，といったものをあげている。また成句で，digo が「直前に述べられた事柄の訂正に伴う表現」と説明されている。DRAE と同様に驚きを意味する間投詞としても紹介されているが，地域性の見られる表現としている。さらに，vamos, digo yo について「話者が述べたことは単に話者の意見であることを際立たせ，しばしば謙遜や不確かさを示す」とある。

日本語による辞書に目を向けると,『プエルタ　新スペイン語辞典』では成句として digo が，1．ええと，そうではなくて(言い直しに使う)，2．当たり前だ，3．おやおや，すごい(感

[1] 本稿では例文中で注目している yo digo/digo yo を斜体で示す。

嘆を示す)，4．もしもし(呼びかけ)，があげられている。また『クラウン　西和辞典』では成句として digo が，1．こりゃおどろいた，2．もとい，言い間違えた，digo yo に「自分はそう思うけど」という説明が加えられている。本稿では，yo digo/digo yo について「私は述べる」という DECIR の基本的な語義での使用のほか，「そうではなくて」という「言い直し」や，「私はそう思うのだけど」，「明らかである」といった「意見」を述べる用法に注目し，これらと文中での位置，語順に関する考察を行う。

2.2. 主語の明示

NGLE(Nueva gramática de la lengua española，2011: 2556-2557，2972-2976，2986―2988)によれば，明示された主格人称代名詞の役割には対照焦点(foco contrastivo)と対照話題(tópico contrastivo)がある。焦点，つまり文の伝達内容または文中で強調されている要素の中で，既に言及された他のものと対立させられている要素が対照焦点である。例文 2 が対照焦点としての yo の例である。「ハビエルが電話したの？」(1 番目の文)という問いに対する答えで，強調されるべき情報は「僕」である。この情報は既に言及されている「ハビエル」と対照させられている。対照焦点は様々な方法で示されるが，それが主語である場合は 2 番目の文に見られるように動詞に後置する。[2]

例文 2

¿Llamó Javier?
ハビエルが電話したの？
No, llamé yo.
いや，僕がしたよ。
No, YO[3] llamé.
いや，僕がしたよ。
*No, llamé.
いや，僕がしたよ。
(NGLE(2011): 2556)

一方，対照話題は次のように説明できる。話題，つまり文の情報の出発点であり，それについて文が述べられ，情報が加えられている要素の中で，他のものと対照させられている情報のことである。ただし，この対比される「他のもの」は，意見や知覚について述べる場合は，必ずしも明示されるわけではない。また，単に叙述関係を明確にし，前の談話と関係付けるために，この対照話題が用いられる場合がある。対照話題は文の先頭か挿入的に使われることが多い。例文 3 が対照話題としての yo の例である。今ここにいる「私」

[2] 例文 2 の三番目の文では yo を音調的に強調することにより，焦点であることを示している。Zubizarreta(1999)，NGLE によれば，文末以外の位置でも，この例文に見られるような音調的な方法や，他の様々な方法で焦点であることを示すことができる。ただし本稿では音声情報の含まれないコーパスの例文を主な考察の対象としているので，焦点の位置を探る上で音調的な情報を考慮していない。
[3] NGLE のこの部分では音調的に強調されている部分を大文字で示している。

を話題，情報の出発点とし，「ハビエル・ガルシアです」と述べている。そして，文中では明示されていない他の誰かと区別しつつ「私」と述べている。なお，本稿ではこれ以降，対照焦点を単に「焦点」，対照話題を「話題」と呼ぶ。

例文 3

Buenos días, yo me llamo Javier García.
おはようございます。私はハビエル・ガルシアです。
(NGLE(2011): 2556)

本稿で検討している yo digo/digo yo について言えば，digo yo の場合，yo は焦点であり，digo に比べて強調されるべき情報となっていると考えられる。一方 yo digo の場合，yo は話題として現れていて，digo を述べるための情報の出発点になっていると考えられる。ただし，この語順で yo が音調的に強調されていると，yo は焦点として使用されていることになり，こちらが強調されるべき情報となる。

2.3. Maldonado González(1999)

Maldonado González(1999)は直接話法を他人の談話の忠実な再現とみなし，人称変化した伝達動詞を含む「導入表現」と，談話の再現を行う「直接引用部」から構成され，両者はコロンで表記されるポーズによって区切られると説明している。一方，間接話法は他人の談話を再現者のダイクシスにしたがって再構成するもので，人称変化した伝達動詞を含む「導入表現」と接続詞の que で表示され，伝達動詞に従属する「間接引用部」から構成されると説明している。本稿で考察の対象とする DECIR は直接話法と間接話法の両方で用いることができる「陳述を表す動詞(verbos declarativos)」であり，これには DECIR の他に COMUNICAR「伝達する(代表的な意味, 以降同じ)」, MENCIONAR「言及する」, NOTIFICAR「知らせる」，MANIFESTAR「表明する」，RESPONDER「答える」，CONTESTAR「答える」が含まれる。

間接話法では引用部が伝達動詞の目的語になると述べる一方，直接話法における導入部と直接引用部の関係については次のものをあげている。a)直接引用部が esto や así のような指示表現と同格であるとする分析，b)直接引用部をメタ言語的用法のひとつと見る分析，c)直接引用部を伝達動詞の直接目的語とみなす分析, d)直接引用部と導入部を並置された二つの構造とみなす分析の四つであるが, Maldonado González は最後のものを採用している。そして，導入部は直接引用部の前，内部，後に現れることができるとも述べている。

ただし，DECIR「～と言う」は「～と約束する」や「～と命令する」のように，それを述べること自体で行為を行うことのできる動詞である。こうした言語行為(acto verbal, 発話内行為とも呼ばれる)を実現する動詞について，Maldonado González は一人称単数現在形で使われる場合には，直接話法や間接話法で用いることが出来ないと述べている。例文 4 で用いられている動詞，AVISAR「知らせる，言う」，PROMETER「約束する」はどちらも言語行為を行う動詞であり，主語は全て一人称単数である。しかしどちらの動詞も現在の時

制では使うことができず，「言った」「約束した」と過去の時制で使うことができるのである。

例文 4

*Te lo aviso: «Te han descubierto».
「君は既に見つかっている。」と僕は君に言う。
Te lo avisé: «Te han descubierto».
「君は既に見つかっている。」と僕は君に言った。
*Te prometo que iré.
僕は君に行くつもりと約束する。
Te prometí que iré.
僕は君に行くつもりと約束した。
(Maldonado González(1999)：3557)

ただし，歴史的現在で現在形が現れる場合や，習慣について述べるために一人称単数現在形を使う場合はこの限りではない。また，一人称単数現在形は発話内で挿入的に使うことが可能である。その場合は，注解・意見や，なされたばかりの発話に対する注記といった扱いになるとしている。これを示すのは例文 5 である。二番目と三番目の例文は，直接話法の引用部の話者が誰かを述べるために，一人称単数である digo yo，dije yo が使われている。上で述べたとおり，こうした場合は二番目の例文のように現在形は使用できず，三番目の例文のように過去形では使用できる。これに対し，一番目の例文は直前に述べたことについて，「僕が言うのだけど」と注記的に付け加えており，こうした場合は一人称単数現在形でも用いることができるのである。

例文 5

Podías haberme avisado, *digo yo*.
君は僕に連絡することができたって僕は言っているんだよ。
*«Podías haberme avisado», *digo yo*.
「君は僕に連絡することができた」と僕は言う。
«Podías haberme avisado», *dije yo*.
「君は僕に連絡することができた」と僕は言った。
(Maldonado González(1999)：3574)

つまり， yo digo/digo yo については，その用法には次の二つの可能性があることがわかる。一つは，直接話法，間接話法として使われているのであれば，単に言語行為の遂行を意味するのではなく，過去の，もしくは習慣的な行為を現在形で述べているというものである。もう一つは，ある発話に対する注解・意見を付け加える表現となっているということである。本稿では，前者のように単に内容部の話者が誰であるかを指摘するために yo

digo/digo yo が使われる用法を「話者伝達用法」，後者のように注解・意見を加えるための用法を「談話処理用法」と呼ぶことにする。

2.4. Martín y Portolés(1999)

Martín y Portolés(1999)は談話標識を「語形変化がなく，文の叙述内容において統語的機能を果たさず，談話において機能を持っている」ものと定義し，概念的な意味は持たずに処理的な役割を担い，談話要素間でなされる聞き手による推論を行わせるものであるとしている。その特徴として次のものをあげている。すなわち，語形が変化せず，出現位置が自由であり，挿入句としての音調を持ち，修飾要素と補語を持つことができないといった点である。情報の構成を担う談話標識，接続を担う談話標識，言い直しを担う談話標識，論拠の操作を行う談話標識，会話における談話標識と分類している。

本稿で考察する動詞 DECIR から派生した digo は，言い直しを担う談話標識に含まれ，その中でも修正の言い直しを行う談話標識(reformuladotes rectificativos)に分類されている。同じグループに属するのは mejor dicho，más bien である。ただし digo は談話標識としての文法化は進んでいないとも述べている。それは例文 6 や例文 7 のように修飾要素や補語を伴うことが可能なこと，例文 8 のように挿入句として使用される場合に，言い直しの機能を持たない場合があることによる。

例文 6

Llevaba sólo tres jornadas aquí –qué digo: tres horas- y ya había pedido autógrafos a las compañeras de Divine. […] [M. Torres, en El País, 27-III-1996, 56]

彼は三日だけここで過ごし，―いや，三時間か―そしてもうディバインの同僚のサインを頼んでいた。

(Martín y Portolés (1999)：4128)

例文 7

[…] que a Telesforo hay que darle de cenar temprano; digo cenar, la pizca de nada que toma [J. Benavente, La malquerida, 139]

テレスフォロには早めの夕食，いや夕食をちょっとだけあげなくちゃいけない。

(Martín y Portolés (1999)：4128)

例文 8

No se ha estudiado bien el carácter apasionante de las memorias, los diarios íntimos y las crónicas de época, al margen del interés documental e histórico. No se ha estudiado, digo, su carácter apasionante de género literario. [F. Umbral, Ramón y las vanguardias, 102]

ドキュメタリー・タッチで，歴史的な興味とは無関係に，興奮をさそう記憶の特徴，個人的な日記，時代の記録といったものはよく研究されていなかった。私は思うのだが，文芸ジャンルの興奮を誘うような性質は研究されていなかった。

(Martín y Portolés (1999)：4128)

つまり，本稿で考察の対象とする yo digo/digo yo は次の理由により談話標識の定義からは外れることになる。まず，yo digo/digo yo は間接話法で用いられる場合に，文全体において統語的な機能を果たしている点，また，「私は述べる」と概念的な意味を持つ点，そして，主格人称代名詞を伴っている点である。

しかし, yo digo/digo yo の中には, 談話標識的な特徴をもつ場合があることも確かである。まず，この表現は出現位置が自由であり，挿入句としての音調を持つ場合がある。また 2.1 で考慮したように，yo digo/digo yo には前言の修正や確認のための繰り返しを行う機能と，「私はそう思うのだけど」といった，内容部が自分の意見であることを付け加える機能を持つ場合があるからである。本稿では，前者の機能を「言い直し」，後者の機能を「意見」と呼び，yo digo/digo yo の談話処理用法の下位機能として扱う。

3. 仮説と検証方法

3.1. 仮説

本稿では yo digo/digo yo が間接話法で使用されている場合以外は，導入部と内容部は並置された二つの文法構造であるとみなし， yo digo/digo yo は内容部とは談話的にも別の情報構造をなしているという前提に基づき，次のような仮説により論を進める。 (1)yo digo/digo yo は話者伝達用法，談話処理用法「言い直し」，同用法の「意見」のうち，どの用法で使用されるかにより前位，中位，後位のどこに出現するかの傾向に違いがあり，前位には話者伝達用法が，中位・後位には談話処理用法が出現しやすいと考える。(2)この表現が話者伝達用法，談話処理用法「言い直し」，同用法の「意見」のうち，どの用法で使用されるかにより，語順(つまり yo digo か digo yo か)の傾向に違いがあり，yo と digo の位置関係は情報構造的な理由により決まると考える。

3.2. 検証方法

Mark Davies による *Corpus del español* から yo digo/digo yo が含まれる文を取り出し[4]，間接話法か, それとも導入部と内容部の並置か, また導入部と内容部の位置関係(前位・中位・後位)，導入部の用法(話者伝達用法，談話処理用法(意見)，談話処理用法(言い直し))，語順(yo digo/digo yo)の情報を取り出す。内容部は一語のみでもよい。これは「言い直し」の談話処理用法で一語だけ言い直すという可能性があるからである。それぞれの用法の分類基準は次のとおりである。導入部と内容部の間にコロンや que を挟んでいたり，文脈から他の話者の発言と区別するために使用されているとみなすことが可能ならば話者伝達用法，文脈上話者を明示する必要がないにも関わらず yo digo/digo yo が使われているなら談話処理用法とみなす。そして同じ発話の中で言い直しをした上で yo digo/digo yo が使われてい

[4] 本研究ではコーパスの検索結果の最初の 120 文を調査の対象としている。

るのなら，談話処理用法(言い直し)とみなし，それ以外の場合は談話処理用法(意見)とみなす。対象とするデータは 20 世紀の話し言葉で，lo que digo yo「私が言うこと」のような関係節内での使用は含まない。

4. コーパス中のデータの概観

4.1. yo digo と digo yo の位置

最初に yo digo/digo yo が内容部に対して出現する位置について概観する。表 1 は yo digo と digo yo と前位・中位・後位の分布を示している。前位については間接話法で使われる場合とそれ以外も分けている。まず導入部は前位で現れることが多いことがわかる[5]。そして，yo digo が現れるのは前位が多い一方で，digo yo は前位でも，中位・後位においても現れることがわかる。

表 1　yo digo/digo yo の位置

	yo digo	digo yo	合計
前位(que あり)	22	4	26
前位	24	13	37
中位	0	6	6
後位	2	10	12
合計	48	33	81

4.2. yo digo と digo yo の機能

次に用法と語順の関係を概観する。表 2 は yo digo と digo yo と用法の分布を示している。yo digo が話者伝達用法で使われる場合が多い一方，digo yo は談話処理用法に比較的多く使われていることがわかる。

表 2　yo digo/digo yo の用法

	yo digo	digo yo	合計
話者伝達用法(que)	22	4	26
話者伝達用法	21	11	32
談話処理用法(意見)	4	14	18
談話処理用法(言い直し)	2	5	7
合計	49	34	83

[5] 引用と話法について日本語とスペイン語の対照研究を行った福嶌(1997)によれば，スペイン語の直接話法の文では，前位・中位・後位のどの型も高い頻度で用いられる。前位が多いという今回の調査結果は yo digo/digo yo に限定したためである可能性があるが，その点に関する考察は今後行う必要がある。

4.3. 前位の位置における語順と機能

表 3 は前位，表 4 は中位，表 5 は後位における yo digo と digo yo の機能の分布を示している。digo yo は yo digo に比べて談話処理用法で使われることがあることがわかる。

表 3　前位における yo digo/digo yo の用法

	yo digo	digo yo	合計
話者伝達用法(que)	22	4	26
話者伝達用法	22	6	28
談話処理用法(意見)	2	3	5
談話処理用法(言い直し)	0	3	3
合計	46	16	62

表 4　中位における yo digo/digo yo の用法

	yo digo	digo yo	合計
話者伝達用法(que)	0	0	0
話者伝達用法	0	1	1
談話処理用法(意見)	0	6	6
談話処理用法(言い直し)	0	0	0
合計	0	6	6

表 5　後位における yo digo/digo yo とその用法

	yo digo	digo yo	合計
話者伝達用法(que)	0	0	0
話者伝達用法	1	4	5
談話処理用法(意見)	1	5	6
談話処理用法(言い直し)	0	2	2
合計	2	11	13

4.4. 各用法と語順の組み合わせの例

4.4.1. 話者伝達用法で yo digo

例文 9 は話者伝達用法で yo digo が使われている場合である。インタビュアーの「あなたはどう言うか」という質問を受け，インフォーマントは発話の情報の出発点として「私」を最初に取り上げ，その後の内容部を導入している。そして，話し手は同じ答え・異なる答えをするかもしれない他者の存在を想定し，その他者と自分を対比させていると考えられる。つまり，ここで yo は話題として使われている。

例文 9

Enc. - Dígame una cosa, Carlitos, ¿usted cómo dice: mi país o este país?

Inf. - *Yo digo* mi país.

Enc. - Dice mi país.

Inf. - *Yo digo* mi país.

インタビュアー：一つ教えてください。カルリートス。あなたはどう言いますか？　我が国？　それともこの国？

インフォーマント：私は我が国と言います。

インタビュアー：我が国と言う。

インフォーマント：私は我が国と言います。

4.4.2. 話者伝達用法で digo yo

次に，例文 10 は話者伝達用法で使用されている digo yo の例である。過去の出来事について，現在形を使って「私は言った。」と直接話法の形で述べている。これは Martín y Portolés (1999)が例外的に使用を認めた直接話法としての一人称単数現在形の例である。これはインタビューの中で，インフォーマントが自分自身とある学生(「彼」)との間のやりとりを述べている部分である。インフォーマントは四行目から始まる発話の中で yo digo を用いている。直前の発話では相手の学生が él として明示されており，この発話が誰によるものかをはっきりさせる必要がある。そのため yo digo は話者伝達用法で使用されていると言える。主格人称代名詞 yo の談話的な役割について言えば，これは焦点として用いられていると言える。この digo yo で情報的に重要なのは「言った」digo ではなく，「私が」yo であり，しかもこの情報は前の部分の él「彼」と対比させられているからである。

例文 10

Enc. - Y... no te da problemas de estudios ni de nada.

Inf. - Regular.

Enc. - Un poquito.

Inf. - Un poquito, porque el niño no es muy buen estudiante, no... no todo lo... él dice que con lo que a mí me gusta estudiar que... que qué raro que a él no le guste, *digo yo*: " No, pues, mira, es cuestión de maneras de ser "

インタビュアー：それで，彼はあなたに対して何も勉強では問題を起こさなかった。

インフォーマント：まあまあね。

インタビュアー：少しは。

インフォーマント：少しは。なぜならその子はとてもよい学生というわけではなかったんです。いや，全く…私が勉強したいのなら自分が勉強したくないっていうのはおかしいって彼は言うのです。私は言いました。「だめよ，だって，ご覧なさい。それはどうしたいかっていう問題よ。」

4.4.3. 談話処理用法で yo digo

次にとりあげるのは例文 11 で，これは談話処理用法で使用されている yo digo の例である。自分の家族の教育について述べた後，話者は教育環境の変化について述べている。話者は自分を発話者として示す必要はなく，発話時点での自分の意見がその後に続いていることから，意見であることを示すための談話処理用法であると考えられる。

例文 11

Enc. - Increíble.

Inf. - Entonces cuando se habla de la cultura de esa época comparada con la cultura de la actual, *yo digo* eh... hay mayor número de gente actualmente en acceso a universidades, a facultades, a institutos.

インタビュアー：信じられません。

インフォーマント：だから，今と比較してあの時代の文化について言えば，私が言いたいのは，現在はもっと多くの人々が大学に，学部に，高校に行けるのです。

4.4.4. 談話処理用法で digo yo

さらに，談話処理用法で使用されている digo yo のコーパス中の例が例文 12 である。回答者は自分が発話者であることを示す必要はなく，直前に述べた試験対策講座に対する自分の意見について言い直し，「私はわからない」と言っていることから，言い直しをするための談話処理用法であることがわかる。

例文 12

Enc. - Yo en febrero tengo que pasar ese examen.

Inf. - Es que me parece que este curso para... para ustedes dos es un curso... lento. *Digo yo*, no sé.

インタビュアー：私は 2 月にその試験に受からなくてはいけないのです。

インフォーマント：というのもこのコースはあなた方にとっては…ゆっくりしたコースだと思います。いや，わかりません。

5. 考察

5.1. 導入部の位置と用法

表 3・表 4・表 5 より，前位で使われる場合は話者伝達用法，中位や後位で使用される場合は談話処理用法という傾向があることがわかる。これは上述の Maldonado González(1999) の見解と一致する。例文 13 では，「君は何と言うの？」と質問されているので，yo digo/digo yo は話者伝達用法で使用されていると言える。ある母語話者によれば，yo digo/digo yo は後位にも来ることは可能ではあるが，その場合は自分の意見を控えめに言っている印象が

あるという[6]。つまり，後位になると談話処理用法的な側面が現れてくるのである。

例文 13

A: Si Juan te dice que te quiere ¿tú qué dices?
B1: *Yo digo*, “lo siento, yo no.”
B2: “Lo siento, yo no”, *digo yo*.
A：もしフアンが君に好きっていったら，君はなんて言う？
B1：僕は言うね。「ごめん，僕は違うんだ」って。
B2：「ごめん，僕は違うんだ」って僕は言うね。

コーパスからの例文 14 のように，前位で使用されているにも関わらず，文脈上は話者が誰であるかが明らかなために，話者を導入する目的で使われているとは言えない例も存在する。これは，単なる注釈や付け足しとして「自分の意見ではあるが…」と指摘する「弱い意見」を述べる用法とは別に，「これが自分の意見である」と「強い意見」を述べるために前位に yo digo が使用されていると考えられる。コーパス中からとった例文 14 ではインフォーマント A が yo digo で言いかけた内容部は途中で切れてはいるが，インフォーマント B が「あなたの生物学的観点では」と言い添えていることから，インフォーマント A は自分の意見をはっきりと言おうとしていたことがうかがえる。

例文 14

Inf. B. - - [no se entiende] a llegar a tomar una responsabilidad sin haber estudiado y sin prepararse, no, pero *yo digo*, en general, la mujer es más…
Inf. A. - -...la mujer en en su aspecto biológico sigue siendo una víctima de... de... de... del... de... del.. de la vida...
インフォーマント B：[理解不能部分]勉強もせず，準備もできていないのに責任を持つようになってしまって，いや，私が言いたいのは，一般的に，女性はもっと…
インフォーマント A：あなたの生物学的観点では，女性は人生の犠牲者であり続けているのですね。

例文 15 の B1，B2 は sin duda「疑いなく」を使用して強い意見を述べる例で，B3，B4 は quizá「恐らく」を加えて弱い意見を述べる例である。強い意見を述べる場合は yo digo が前位となり，弱い意見を述べる場合は digo yo が後位になることがわかる。前位で yo digo を述べる場合は，次に述べる内容部が自分の意見であると最初に宣言する行為となり，「自分の意見」という側面を強調することになっていると考えられる。一方，後位で述べる場

[6] 以降「コーパス中の例(文)」と述べられていない例文は筆者による例文であり，容認度は母語話者(スペイン出身)に対して調査した結果である。しかし，yo digo/digo yo を談話標識的に使う場合，母語話者による容認度には差があり，ある母語話者は例文 13 については digo の代わりに過去未来形の diría を用い，後述の例文 15 については digo の代わりに creo「私は思う」を用いると述べた。また，例文 19 のような，言い直しの用法も不自然だと述べた。本稿では yo digo/digo yo の談話標識的な使い方を容認するインフォーマントの意見を採用している。

合は，注解や付け足しとして「自分の意見」という情報を追加するだけであり，強い主張は感じられない。つまり，yo digo/digo yo の位置と用法の関係について言えば，話者伝達用法・談話処理用法(強い意見)の場合は前位，談話処理用法(弱い意見，言い直し)の場合は中位，後位となると考えられる。

例文 15

A: ¿Qué os parece el nuevo profesor?

B1: *Yo digo*, sin duda es bastante exigente.

*B2: Sin duda es bastante exigente, *digo yo*.

*B3: *Yo digo*, quizá es bastante exigente.

B4: Quizá es bastante exigente, *digo yo*.

A：新しい先生，どう思う？

B1：間違いない。彼はかなり口うるさいと僕は思うね。

B4：多分，彼はかなり口うるさいと僕は思うな。

5.2. 情報構造と yo digo/digo yo

yo digo/digo yo の順序の違いは yo が話題なのか，焦点なのかという情報構造的な要因によるものが大きいと考えられる。間接話法になっていない発話については， yo が果たす談話的な役割により，yo と digo の前後関係が決まっていると考えられる。前の発話を受け，情報の出発点，つまり話題として yo が使われている時には，yo digo の語順が現れる。その一方，yo が発話の中で焦点として強調されている場合，つまり yo を述べるために yo と digo の組み合わせが使われているのであれば，焦点の無標の位置である文末に yo が現れ，digo yo の語順が使われるのである。

話者伝達用法で yo と digo の組み合わせが使われている例文は過去や仮想の会話や出来事の再現の中で話者としての yo を持ち出している場合が多い。その中では，自分を出発点として「質問する」でも「否定する」でもなく単に「述べる」という行為を文の焦点として導入する必要がある。ゆえに yo が話題となる yo digo の語順が通常は用いられると考えられる。例文 16 はそのことを裏付けている。この例文では話者 A が「誰が言うのか」と質問していていることから，それに対する yo digo/digo yo は話者伝達用法になる。また，質問の中で話者 A は vosotros「君たち」と述べていることから，話者 B が「私」を情報の出発点として使うことは可能であると考えられるが，yo が話題，digo が焦点の位置となる語順の容認度が高い。

例文 16

Jugando, uno pregunta,

A: ¿A ver quién de vosotros dice una tontería?

B1: *Yo digo*, “Ana quiere comer zapatillas.”

*B2: *Digo yo*, “Ana quiere comer zapatillas.”

遊びながら，ある子が質問する。
A：じゃあ，君たちのうちの誰が何か面白いことを言ってくれるのかい？
B1：僕が言うよ。『アナはスリッパが食べたい』って。

しかし，表 2 より digo yo が話者伝達用法で使われている例もあることがわかる。これはコーパス中の例である例文 17 のような場合である。この場合，le という間接目的格人称代名詞が話題的な役割を発話の中で果たしており，結果として yo は文末に来ていると考えられる。誰が発話者であるかを明らかにする話者伝達用法で使われてはいるが，発話の相手を情報の出発点としてしまったために，yo が話題の位置を外れざるを得なくなったのである。話者伝達用法で使われる 14 の digo yo うち，10 の例文がこのような目的格の代名詞を伴ったものであった。

例文 17
Santiago dice: " Pero si no ganan na' los profesores, pues Gaby; se mueren de hambre ". " ¿Y cómo nosotros no nos morimos de hambre? ", le *digo yo*.
サンティアゴは言った。「でも教師たちが一銭も稼がなかったら，だってガビ，彼らは餓死しちゃうよ」　「それなら我々はどうやったら餓死しないんだい？」彼に僕は言った。

では，談話処理用法についてはどうだろうか。この用法には既に見てきたように，直前の内容を訂正したり，繰り返したりする「言い直し」の用法，強い主張として自分の意見を述べる「強い意見」，単に自分の意見であると申し添えるだけの「弱い意見」の用法がある。まず，「言い直し」について言えば，yo は焦点になっていると考えられる。「言い直し」の場合，既にもう何か「述べた」のであるから，(もう一度)「述べる」ことは情報の出発点にしかなりえない。一方，話し相手が直前の発話について行ったかもしれない誤解を解くために，これから述べることが「私」によるものであるということを焦点として強調することは適切であると考えられる。コーパス中の例である例文 18 はこの例である。ある問題の原因を J. R.氏側にあるとする発言を言い直す機能を no digo yo は持っているが，これは聞き手が抱くかもしれない「J. R.氏が頑固であるために問題が起きた」という誤解を訂正するべく，話者が「私」を焦点の位置で強調することにより，自分自身の解釈を示していると考えられる。

例文 18
…entonces ahí fue justamente donde yo empezaba mis problemas con J. R., que J. R. estaba más firme en u... en sus convicciones, no *digo yo*, porque... yo no las pueda tener, sino porque yo estaba viendo una realidad distinta...
…それでちょうどそこから私と J. R.の間の問題が始まったのです。というのも J. R.は信じていることについて私よりも頑固で，いや，私が信じられなかったからではなくて，私は違う現実を見ていたからのです。

この点は例文 19 の母語話者テストで digo yo の順番が高い容認度を持つことからも裏付けられる。この例文では「ちょっと…」と言いかけることによって生じた相手の間違った理解を訂正するべく「かなり」と述べ，最後に「言い直し」を示す yo digo/digo yo を加えているが，やはり「私」を発話末の焦点の位置で強調する digo yo の語順が容認される。

例文 19

El profesor es un poco… no, bastante exigente, *digo yo*.

*El profesor es un poco… no, bastante exigente, *yo digo*.

先生はちょっと，いや，かなり口うるさい。

内容部は自分の意見に過ぎないと述べる「弱い意見」の場合も，焦点となるべき情報は「私」であると考えられる。この場合，自分とは違う意見を述べるかもしれない他者の存在が想定され，「これは私の意見に過ぎないのだ」ということで「私」が焦点として発話の最後で強調されていると考えられる。例文 20 では話者 A が新しい先生の感想を話者 B にたずねているが，その返答は quizá「恐らく」を用いた「弱い意見」を述べる例文である。この場合，yo が発話の最後で焦点として強調される文のほうが容認度が高い。

例文 20

A: ¿Qué os parece el nuevo profesor?

B1: Quizá es bastante exigente, *digo yo*.

*B2: Quizá es bastante exigente, *yo digo*.

A：新しい先生，どう思う？

B1：多分，彼はかなり口うるさいと僕は思うな。

例文 21 はコーパス中の例である。「自分を広告に売りだそうとする人」を評するなかで digo yo を用いているが，ここでは「色付きの魚」を自分の意見として導入している。これは単なるたとえであるから，他の意見を述べる人も当然いると話者は想定しているはずである。ゆえに焦点として強調されているのは「私」で，「私が述べるに過ぎないのだが」という意味でここでは使われていると考えられる。

例文 21

Una persona que trata de venderte publicidad, que es una cosa abstracta, que es una cosa realmente difícil de vender, es como, *digo yo*, peces de colores. Tiene que entrar por venderse primero ella misma.

自分を広告に売りだそうとする人，それは観念的で，本当に難しいのだけれども，そういう人はまるで，私は思うのだけど，色付きの魚みたいだ。まず自分自身を売ることを受け入れなくちゃいけない。

では，内容部が自分の主張であると強く述べる「強い意見」の場合はどうだろうか。この場合，焦点として強調されているのは digo「述べる」であると考えられる。続く内容部について他の何をするのでもなく「述べる」ということを情報の焦点として示しているのである。この場合の「私」yo は話者伝達用法の yo と同じく情報の出発点，つまり話題に過ぎないのである。例文 22 は例文 20 と同じ質問に対する返答であるが，sin duda「疑いなく」を加えた「強い意見」を述べる例文である。先頭の yo digo，digo yo という発話について考えれば digo が発話の最後，つまり焦点の位置に置かれるものが容認されている。

例文 22

A: ¿Qué os parece el nuevo profesor?

B1: *Yo digo*, sin duda es bastante exigente.

*B2: *Digo yo*, sin duda es bastante exigente.

A：新しい先生，どう思う？

B1：間違いない。彼はかなり口うるさいと僕は思うね。

6. 結論

yo digo/digo yo は用法により位置の傾向が異なる。話者伝達用法で使用される場合は前位で用いられる傾向がある。談話処理用法については，下位機能「意見」にはその強さによりさらに「強い意見」と「弱い意見」に分類され，前者の場合は前位，後者の場合は中位・後位で現れる傾向がある。そしてもう一つの下位機能「言い直し」について言えば中位・後位で現れる傾向がある。yo と digo の順序については，話者伝達用法の場合は，yo は話題として使われるために yo digo の語順が用いられる傾向がある。一方，談話処理用法の場合については，「言い直し」と「弱い意見」の場合は yo を焦点として示すために digo yo の語順が用いられるが，「強い意見」の場合は digo を焦点として示すために yo digo の語順で用いられる。

参考文献

寺崎英樹(1998)『スペイン語文法の構造』，大学書林.

福嶌教隆(1997)「日本語とスペイン語の引用と話法」,『日本語と外国語との対照研究 V　日本語とスペイン語(2)』，国立国語研究所.

山田善郎他(1995)『中級スペイン文法』，白水社.

Concepción Maldonado González (1999) “Discurso directo y discurso indirecto”, en Bosque, Ignacio y Demonte, Violeta (eds.) (1999) *Gramática descriptiva de la lengua española*, pp.3549-3595, Espasa Carpe.

Martín Zorraquino, María Antonia y Portolés Lázaro, José (1999) “Los marcadores del discurso”, en Bosque, Ignacio y Demonte, Violeta (eds.) (1999) *Gramática descriptiva de la lengua española*,

pp.4051-4213, Espasa Carpe.
Real Academia Española y Asociación de Academias de la Lengua Española (2009), *Nueva gramática de la lengua española*, Espasa Carpe. [本文中では NGLE と略記]
Zubizarreta, María Luisa (1999) “Las funciones informativas: Tema y foco”, en Bosque, Ignacio y Demonte, Violeta (eds.) (1999), *Gramática descriptiva de la lengua española*, pp.4215-4244, Espasa Carpe.

辞書

『プエルタ　新スペイン語辞典』上田博人他(2006)，研究社.
『クラウン　西和辞典』原誠他(2005)，三省堂.
Diccionario de la lengua española, vigésima segunda edición Real Academia Española (2001)
Diccionario de uso del español, tercera edición, María Moliner (2007)

コーパス

『スペイン語話し言葉コーパス』21 世紀 COE プログラム『言語運用を基盤とする言語情報学拠点』(2009)：2010 年 12 月にアクセス
Corpus del español，Mark Davies，オンラインコーパス：2010 年 12 月～2011 年 1 月にアクセス